

平成 25 年 6 月 29 日

立正大学

学長 山崎 和海 様

立正大学外部評価委員会

委員長 石川 弘道

## 平成 25 年度 立正大学外部評価委員会 提言

今年度の外部評価は『2012(平成 24)年度自己点検・評価報告書』およびヒアリングにより行った。以下、具体的な提言を行うので、今後の大学運営に生かされることを期待する。

### 1.総括

全学共通科目『学修の基礎』による全学統一的な自校教育や、建学の精神を特徴づける新たなイベントの導入など、大学の目指す姿の具体化に取り組んでいる。就職支援については種々の工夫がなされており、今後の就職率の向上に反映されるものと期待される。

教育・研究環境の改善やグローバル人材の育成など、各学部での取り組みについてはある程度評価ができるが、全学的な視野での見直しおよび、学部横断的な改善については、さらなる取り組みが必要と思われる。

学生支援に関しては、メンタルヘルスケアについて改善の必要があると認められる部分もあるが、今後の充実に期待する。

以下、効果が認められ、一層の伸張が期待される事項および改善が必要な事項を挙げるので、今後の前向きな取り組みを期待する。

### 2.効果が認められ、一層の伸張が期待される事項

- (1) 本年度「花まつり」を実施したことは、仏教に由来する建学の精神を持つ大学を特徴づけるものとして評価できる。今後のさらなる展開が望まれる。
- (2) 初年次教育ならびに教養教育の在り方を考える協議会において、継続的な検討が行われており、今後の継続的発展が見込めることは評価できる。
- (3) 学生支援については、全学的に種々の対応が真摯になされていると評価できる。「学生支援の方針」が、近日中に策定、明示化されることにより、一層の支援の充実に期待される。
- (4) 『学修の基礎』科目により、全学部に対する統一した自校教育を行っていることは評価できる。

### 3.改善が必要な事項

- (1) 文学部史学科および社会学科において、専任教員1人あたりの在籍学生数が多い。学内比でも社会科学系学部を上回っており、卒業論文を必修と課している学科としては問題であり、早急に是正されたい。
- (2) 社会福祉学部において、スポーツ推薦入学生の入学者数が、募集定員を上回っていることは、学部教授会の議を経ていることとはいえ、改善が望まれる。
- (3) 各学部の教育・研究環境の改善に対する取り組みを全学的な視野で評価し、学部横断的な改善へと展開すべきである。また、それに必要な大学としての統一的な方向性に対する意識が希薄であるように感じた。これらの点は改善すべき課題である。
- (4) 学生のメンタルヘルスについての支援体制は、担当部門が分散されており、相互の関連も不明確である。組織として統一的に機能するよう部門の役割と連携体制を明確にされたい。
- (5) 「立正大学地震対策措置規程」(最終改正平成10年)および「立正大学危機管理規程」(最終改正平成21年)は、東日本大震災の経験ならびに最新の現場マニュアルを反映した形で、見直しをされたい。

以上